

「認知症の人にやさしいまち」について

※「認知症の人にやさしいまち」の考え方や概念等について、第1回有識者会議でのご意見やその後のヒアリングを踏まえ、以下のとおり論点として整理

(1) 「認知症の人にやさしいまち」とは

- 認知症の人たちにとって、住みやすい・フレンドリーな環境づくりをという意味ではないか。
- ユニバーサルデザインやバリアフリーとの違いをどう考えるか。
- 認知症になる可能性は誰にでもあり、地域で見守っていくというのは当然のことである。地域のコミュニティを高めることではないか。
- 家族だけで悩みを抱えていた方がおられたが、相談に乗っていく中で地域に声をかけて助けを求めるようになり、その後はデイサービスに通うようになった。このことから、家族が安心して助けを求めることができる地域ではないか。
- 認知症の有無に関わらず、これまでと同じように地域で活動できるということではないか。
- 運転免許がなくなっても助けてくれる人が存在し、買い物に行ける、入院や治療が受けられる、施設の利用を拒否されない、ということではないか。また、都心と田舎での違いをどう考えるか。
- 障害者教育等により少しずつ障害者の理解が進んできたように、認知症の理解者が増えることで、認知症の人が温かく見守られる地域になる。このためには、小学生のころから認知症の理解を促す教育を継続して行うことなどが有効である。
- 全体の枠組みの中で中心になるのは医療・介護の対応であり、事故救済は例外的な対応。認知症高齢者が起こした事故について、現状は、賠償義務を負う者は誰もいないという状況を作ってしまったため被害者の救済が全く実現されない。このことで、社会にとって認知症高齢者がリスク要因かのように位置づけられてしまう可能性がある。このような状況は避けるべきで、認知症の方が事故を起こした場合に一定のサポートをしていくこと

は、被害者の救済が実現され、認知症の方にとってもやさしい、家族にとってもやさしいという意味を持つのではないか。

- 子どもや家族に認知症高齢者に近寄るなど言わざるを得ない状況は、認知症の人にやさしいまちづくりとは言えない。
- （責任能力のない）認知症患者の起こした事故の被害者を市がサポートすることは、認知症高齢者を支える周囲の人達のサポートにもなる。
- 医療や介護のサポートがあっても、認知症の方をご家族で支えるのは困難なので、認知症患者のご家族を周囲の人達が気軽に訪問したり、協力して支えることが出来るようなまち、周囲の優しい人が優しい行動をとれるようなまちが望ましいのではないか。
- 認知症の患者さんが、病気がなかったら送っていたであろう生活に限りなく近い生活が送れることを可能にしてくれるまちではないか。そのためには周囲の偏見があってはいけないし、その方が病気の結果困難となったことと、影響なくできることを正しく見極め、前者に対して必要なサポートが速やかに得られる社会ではないか。

（２）認知症当事者の参加

- 障害者の分野でもそうだが、当事者の声を聞いて意思決定や政策に活かしていくというのが大きな流れになっている。２回目以降は事情も勘案しながら、当事者からも意見を聞けるように調整してほしい。
- 国が新オレンジプランを作ったときもその前年に当事者団体が安倍首相に要望を伝えて策定された。現在当事者の意見なしに認知症施策の策定はありえない流れで、条例制定にあたっては、当事者の要望・意向・希望を聞くという仕組みを是非取り入れていただきたい。
- 認知症の症状は、MCI という物忘れはあるが自分の意見をはっきり言える予備段階から症状が進み、最終的にはごはんを食べたいのかも分からなくなるという非常に幅広いものである。当事者目線は大事だが、このような委員会で抽象的で広範囲の質問を聞いてお答えできるというのは相当症状が軽い人等であり、その意見が代表として独り歩きしないかと引っかかるところがある。質問事項も抽象的なことではなく、具体的なものに絞っ

て、あるいはご家族も一緒になってご意見を聞くというのもわからないではない。こういった部分に気をつけて聞くようにしてほしい。また、症状の進んだ方や難しいケースについては、やはり介護している家族やサポートしている方のご意見が必要になってくる。

- 認知症の患者さんに直接、「どういうまちがよいと思いますか。私たちは何をしたらよいですか。」と問いかけて、すぐに答えを頂けるのであれば、それほど悩まなくてよい問題である。実際には、軽度認知障害の方や血管性認知症の患者さんなどでは、自らのお考えやご希望を述べることができても、病状が進んだ患者さんは病期とともにそのご本人の価値やコミュニケーション能力が失われ、結果として周囲にご本人の考えや気持ちを表出できなくなる。これが認知症の本質であり、難しいところである。
- ある程度の意見表出ができる人には是非お考えを聞かせ頂き、一方進んだ患者さんに対するやさしいまちについては、長年介護を通じて接しているご家族の方のご経験などをもとに本会議の参加者が付度する必要があるように思う。